

## 吉村順三、中村好文、丸谷芳正の名作「たためる椅子」 スペシャルエディション2019 が誕生

ミナペルホネンのテキスタイルをまとった限定モデル

2019年5月25日（土）八ヶ岳高原音楽堂にてお披露目会 開催

関連コンサート「音楽とワインのタベ～ポーペイサージュと音の仲間たち～」も同日開催



Photo: Ooki Jingu

株式会社八ヶ岳高原ロッジ（代表取締役社長 岩見和敏）は、八ヶ岳高原音楽堂の客席椅子（吉村順三、中村好文、丸谷芳正の3名による共同デザイン）として使用されている「たためる椅子」のスペシャルエディションを、ミナペルホネンと設計工房M and M（代表：丸谷芳正）との協業により製作し、2019年5月25日（土）に発表いたします。

株式会社八ヶ岳高原ロッジは、広大な別荘地と、ホテル、コンサートホールから構成される株式会社そごう・西武の高原リゾートで、その施設の一つである八ヶ岳高原音楽堂は、吉村順三の設計により1988年に誕生しました。土地の美しさ、懐の深さ、清々しさで、訪れた人々を深く魅了してきた音楽堂が、2019年に30周年を迎えるにあたり、隠れた名作「たためる椅子」にもう一度光をあてたいという願いから吉村順三、中村好文と深い関わりのある皆川明が率いるミナペルホネンのテキスタイルをまとった限定モデルを、2019年12月31日までの期間限定で120脚製作する運びとなりました。

限定モデルの誕生を記念し、スペシャルイベントを開催いたします。八ヶ岳高原ロッジと皆川明とも親交が深く、今回のコラボレーションの縁をつないだ岡本英史がつくりだす自然派ワイン ポーペイサージュと、それを慕うミュージシャンによるコンサート「音楽とワインのタベ～ポーペイサージュと音の仲間たち～」もあわせて開催します。

**「たためる椅子」スペシャルエディション 2019 お披露目会詳細**      2019年5月25日（土）13:30～14:45      無料

会場    八ヶ岳高原音楽堂 ホワイエ、音楽堂芝生 / 〒384-1302 長野県南佐久郡南牧村 八ヶ岳高原海の口自然郷 内 TEL:0267-98-2131

定員    50名    要予約 (tel.八ヶ岳高原ロッジ0267-98-2131)

内容    岡本 英史（ポーペイサージュ）、丸谷 芳正（「たためる椅子」製作者）、皆川 明（ミナペルホネン デザイナー）  
吉本 宏（レゾナンスミュージック）のトークイベントを開催します。  
同時開催コンサート「音楽とワインのタベ～ポーペイサージュの仲間たち～」の開演前に行います。

備考    お披露目会のみご参加のお客様は、音楽堂ホワイエ、芝生のご入場となり、音楽堂ホール内にはご入場いただけません。  
あらかじめご了承ください。 ※未就学児ご参加可

**「音楽とワインのタベ～ポーペイサージュと音の仲間たち～」**      2019年5月25日（土）13:30 開場 15:00 開演    有料

会場    八ヶ岳高原音楽堂 / 〒384-1302 長野県南佐久郡南牧村 八ヶ岳高原海の口自然郷 内 TEL:0267-98-2131

予約    チケット代など詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.yatsugatake.co.jp/event/concert/2019/0525/flyer.pdf>

内容    世界的評価が高く入手困難な、岡本英史がつくりだす八ヶ岳の麓・津金の幻の自然派ワイン「BEAU PAYSAGE（ポーペイサージュ）」。八ヶ岳高原音楽堂や岡本英史と縁のある感性の豊かな音楽家たちが、八ヶ岳の麓に広がる「美しい風景」を音楽で表現し、その余韻をワインで楽しむ至高のひとつときをお楽しみください。 ※未就学児ご参加不可

### 交通

当日13:30～14:45、八ヶ岳高原ロッジ⇄八ヶ岳高原音楽堂間を無料送迎バスが運行します。（車での所要時間 5分）

## 「たためる椅子」とは オリジナルバージョンのご案内



「たためる椅子」は、1988年に吉村順三が設計した八ヶ岳高原音楽堂のために吉村順三、中村好文、丸谷芳正、3名の共同デザインにより300脚製作されました。そして八ヶ岳高原音楽堂完成から2年後の1990年に正式発表されました。

「たためる椅子」は、「本格的にきちんと座れるフォールディングチェア」として、「座布団」のコンセプトを椅子へと昇華し、折りたためる機能性と、座り心地の良さが特徴。さらに、収納性も考えられており木製の専用スタンドを使えばきれいにしまえるようになっています。

日本人のDNAに刻み込まれた所作「たたむ」「しまう」「だす」が基軸となったこの椅子は、時代を超えて、いまなお、新しい風を感じる隠れた名作として評価されています。八ヶ岳高原音楽堂では、現在も「たためる椅子」でコンサートをおたのしみいただいています。

この椅子は、シンプルながら、快適性・機能性・意匠性を追求すべく、製作当初の仕様から、吉村順三、中村好文、丸谷芳正の3人が共同で試作改良を重ね、現在では、設計工房M and Mにて販売されています。

### 商品概要

サイズ W575 D560 H700 SH360 (mm) /折りたたみ時:W595 D115 H805  
 素材 本体：ペイマツ（塗装 ポリウレタン）木製ヒンジ&座受：カシ 座：本革 / 麻キャンバス  
 販売価格 革張り ¥100,000+tax 麻キャンバス張り ¥88,000+tax  
 デザイナー 吉村順三、中村好文、丸谷芳正



「たためる椅子」×ミナペルホネン スペシャルエディション 2019



Photo: Ooki Jingu



Photo: Ooki Jingu

テキスタイル

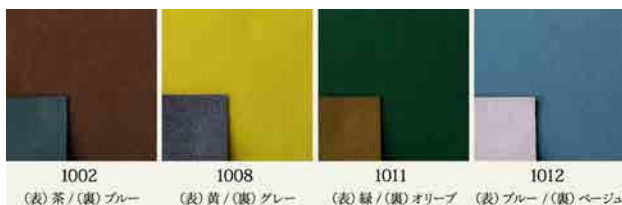
吉村順三の設計、改築を中村好文が手がけた建築をミナペルホネンの保養所とするなど、「たためる椅子」に携わった方々との縁が深い皆川 明が、八ヶ岳にインスピレーションをうけて選んだ計9色から色をお選びいただけます。

ミナペルホネン、鮮やかな色そのものが引き立つ無地の "dop" と、蝶の刺繍が施された "dop-choucho-"。表裏異なる2色で織られたテキスタイルは、長い年月使用していくなかで、生地が擦り切れていくと、新しい表情をのぞかせていきます。

テキスタイルバリエーション

"dop" (無地 4色)

"dop-choucho-" (柄あり 5色)



本体

スペシャルエディションに限り、軽量で、心地良い手触りの吉野杉を使用しています。

「たためる椅子」×ミナペルホネン スペシャルエディション 2019 商品概要

- サイズ W575 D560 H700 SH360 (mm)  
折りたたみ時:W595 D115 H805
- 素材 本体：吉野杉（塗装 撥水セラミック） 木製ヒンジ&座受：カシ  
座：ミナペルホネンのテキスタイル全9色
- 販売価格 ¥130,000+tax
- デザイナー 吉村順三、中村好文、丸谷芳正
- 備考 2019年12月31日までの120脚限定販売



## 参考資料

### 八ヶ岳高原海の口自然郷

1963年、放牧により荒れ果てた牧場跡地を中心とした計画地（約200万坪）に、30万本以上の樹木を植えることから海の口自然郷の歴史は始まりました。その後、自然との共生をめざしながら現在に至っています。この土地では、八ヶ岳連峰の東山麓、標高差が約400mの緩斜面に、南北に約2.6km、東西に約5.5kmの規模で広がります。場所によって土地は表情を変え、そこで出会える自然の美しさは多種多様です。八ヶ岳高原ロッジ、八ヶ岳高原音楽堂、そして八ヶ岳高原ヒュッテ。八ヶ岳高原海の口自然郷の主要施設に隣接する「中原地区」。四季を通じて、八ヶ岳連峰の雄大な姿を水面に映し出す、美鈴池を中心に広がる「美鈴地区」をはじめ、8つの地区から構成されています。



### 八ヶ岳高原ロッジ

コナシやシラカンバに抱かれるように建つ、落ち着いた高原のホテルです。天然木の柱や梁が印象的なロビーは、自然を満喫しながらゆっくりとした時間をお過ごしいただけます。2つのレストラン、7タイプ68室からなる八ヶ岳高原ロッジは、多目的ホールやアートサロン、バーも備えています。



### 八ヶ岳高原ヒュッテ

自然郷のシンボルとして親しまれている八ヶ岳高原ヒュッテは、1968年（昭和43年）この地に移築され翌年ホテルとして営業を開始しました。1976年（昭和51年）にはテレビドラマ「高原へいらっしゃい」（田宮二郎・由美かおる主演）の舞台としても利用されています。

イギリス中世のチューダー様式（木造軸組工法2階建て・延床面積は799㎡）のこの建物は、元侯爵徳川義親氏（1886～1976 尾張徳川家19代当主）の邸宅で、1934年（昭和9年）東京の目白に建てられました。設計は、上野東京帝室博物館（現東京国立博物館）や日比谷第一生命館、銀座和光などを手がけた渡辺仁氏（1887～1973）。ティールーム、レストラン、ヒュッテ展示案内、売店の季節営業となります。

＊2019年7月まで耐震強化および改装工事中。

### 八ヶ岳高原音楽堂

開発当初、別荘地「八ヶ岳高原海の口自然郷」には、音楽好きなオーナーが多く、互いに持ち寄った自慢のレコードによる鑑賞会が開かれていました。1974年八ヶ岳高原ヒュッテの前庭で行われた“八ヶ岳高原レコードコンサート”が音楽堂誕生の契機となりました。翌年には「大自然の中で生の演奏を」との声が高まり、1975年8月、初めてのサロンコンサートが開かれました。以来、国内のトップアーティストはもとより、海外からもリヒテル、アシュケナーズなど、錚々たる音楽家がこの地を訪れました。そして1988年、吉村順三の設計により「八ヶ岳高原音楽堂」が誕生。こけら落としは世界的なピアニスト・スヴァトスラフ・リヒテルが音楽監修をした「八ヶ岳高原音楽祭'88」。彼の監修する音楽祭はフランスの「ツール音楽祭」、モスクワの音楽祭「12月の夕べ」について、世界で3つめのものとした。スメタナ弦楽四重奏団やキース・ジャレット、クロノス・カルテットなどのアーティストもこの音楽堂で見事な演奏を披露しています。音楽堂の誕生にあたり、リヒテル氏と日本を代表する作曲家・武満徹氏がアドバイザーとしてむかえられました。

1989年、八ヶ岳高原音楽堂は毎日芸術賞を受賞しています。

